

令和2年度 上田市立 浦里小学校 自己評価シート（中間報告）

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	
自分のよさを切り拓く子ども	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで勉強しよう ・思いやりのある人になろう ・丈夫な心と体をつくらう ・ふるさと(浦里)に学ぼう 	
	今年度の重点目標	
	1	自分の考えを持ち、自分から伝えられる
	2	人にやさしくできる
	3	自分から主体的に動ける
4	自分から地域と関われる	

総合評価					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
学校目標「自分のよさを切り拓く子ども」を目指し、4つの重点目標もと取り組んできた。①「進んで勉強しよう」については、体育科単元訪問を機会に課題に対して主体的に取り組む力を育ててきた。今後は「振り返りの時間の確保」を視点に、進んで学習に取り組む力を育てていきたい。②「思いやりのある人になろう」については、異学年や地域の方々との関わりの中で、相手をお大切に思う気持ちが醸成されてきている。今後は「振り返りの時間」において、友との関わりを位置づけ他者の思いに触れていくことで、思いやりの心をさらに醸成していきたい。③「丈夫な心と体をつくらう」については、朝マラソンや体みぎきの時間を通して主体的に体を鍛えようとしてきたが不十分な面があるので、継続していきたい。また、授業を通して自己肯定感を高めることで、丈夫な心の育成も図ってきたい。④「ふるさと(浦里)に学ぼう」については、新型コロナの影響で制限のある中、ふるさと学習を通して地域と関わってきたことで多くの学びがあった。今後はより主体的に取り組める工夫を考えていきたい。					
異学年や地域の方々との関わりの中で、自分の思いを持ち伝え合っているが、新型コロナの影響で関わる機会が制限されている。		○			可能な限り異学年や地域の方々との関わる機会を位置づけていく。授業においても「振り返りの時間」の確保を意識していく。
異学年や地域の方々との関わりの中で、相手をお大切に思う気持ちが醸成されてきている。		○			可能な限り異学年や地域の方々との関わる機会を位置づけていくとともに、授業における「振り返り」で、友との関わりを位置づけていく。
朝マラソンや体みぎきの時間を通して主体的に体を鍛えようとしてきたが、その輪が全体に広がりきれていない。		○			朝マラソンなど主体的な取り組みへの声がけを継続するとともに、主体的な姿をとらえ、認め、広げていく支援を行っている。
新型コロナの影響で制限のある中、ふるさと学習を通して地域と関わってきたが、なかなか主体的とまではいかなかった。		○			ふるさと学習において「地域の方々を支えられている」と実感できる学習の工夫をすることで、主体的に地域に関わっていく意欲を喚起する。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程	総合的な学習・生活科	ふるさと学習において、問題解決学習を基本とした体験学習を確実に一単元以上で実践できたか
		学習支援ボランティアの導入	全てのクラスで複数の教科にわたり学習支援ボランティアを導入できたか
		運動の日常化の推進	マラソンを日常化し、休み時間に体育館や外で遊んでいる児童の数が昨年度よりも増加するような働きかけをすることができたか
	学習指導	学習問題・課題の共有	子どもたちが自ら追究したいと考える学習問題が設定・提示されたか
		コミュニケーション能力の育成	ICT合同授業や連学年授業を充実させ、友だちと関わり、学び合う場面が位置付いた授業が行われていたか。
		きめ細やかな個別指導の充実	はげみタイム・個別指導の時間は複数体制で指導し、基礎基本の獲得・活用力に伸びが見られたか
		意義を感じ、やりがいの持てる家庭学習	家庭学習の手引きや家庭学習ノート等を活用し、家庭・保護者と連携して、定期的に評価することで、力がついていることを実感することができたか。
生徒指導	基本的生活習慣	「早寝、早起き、朝ごはん」「明るいあいさつ」「自分からテレビやゲームのスイッチを切る」を意識して生活できる児童が増えたか	
	良さを見る目と想像力の育成	授業で、友だちのおかげで自分がわかったり、変わったたりしたことを振り返る時間をとることができたか。	
学校運営	地域との連携	コミュニティ・スクール	授業や行事への参加を通して、学校運営のあり方に意見をいただき、それを教育活動の改善に生かされたか
		学校支援組織・PTA	コミュニティ・スクール実践目標のあいさつ・メディアを重点に、学校運営協議会や学級懇談会で取り上げ、地域・家庭と連携して取り組むことができたか。
	研修	教科研究	研究テーマをもとに個人テーマを設定し、研修を積んだことが、子ども中心の授業実践に生かされたか
		各種研修	地域のことを知るための研修や教師として様々な子どもに対応できる研修が行えたか

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
新型コロナウイルスの影響もあったが、どの学年も体験学習を位置づけた単元を一単元以上で実践できたが、問題解決的な学習に至らないこともあった。		○			児童に「問い」を持たせ、それを解決していく学習活動ができるだけ仕組んでいく。
新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上で、9月より順次導入を開始している状況であるが、例年に近い活動ができつつある。		○			感染防止対策を十分とった上で、継続して活動に参加していただく。
運動会やマラソン大会に向け自主的に取り組んでいた児童もいるが、新型コロナウイルスの影響もあり計画通り進んでいない。			○		徐々に例年通りの活動に戻ってきているので、教師から働きかけを行っている。
体育科単元訪問を機会に、子どもたちが自ら追究したいと考える学習問題を位置づけた授業を構想し、実践することができた。	○				体育科単元訪問授業で学んだ「振り返りの場を位置づける」ことを他教科でも実践していく。
体育科単元訪問を機会に、連学年授業において異学年同士で関わり合う場面を設けることを通してコミュニケーション能力の育成につなげることができた。		○			今後も連学年授業や縦割活動を継続し、異学年との交流の中でコミュニケーション力を向上していく。ICT合同授業も計画していく。
はげみタイムや個別学習の時間を継続して行うことで、基礎基本の定着を図ることができたが、活用力ののびについては現段階で十分評価ができていない。			○		はげみタイムや個別学習を継続するとともに、授業や単元テスト等を通して、活用力ののびについて評価していきたい。
新型コロナによる休業中には、保護者と連携しながら復習、予習を中心とした家庭学習を行い、学習の定着の把握に努めたり、必要に応じて指導をしたりした。		○			よりよい家庭学習のあり方について再度検討し、その成果について今後行う学校評価で評価をしていく。
挨拶については多くの子が自分から行っている。テレビ・ゲームについては時間を決めて行っているようだが、長時間になる子もいる。		○			PTAとも連携し、引き続きテレビ・ゲームについての働きかけをしていく。
友との関わりの中で自分の考えの深まりや広がりを実感している子が増えているが、授業において振り返りを十分確保できない場合もあった。		○			「振り返りの時間を位置づける」ことを全校研究の共通の取組として行い、その成果を評価していく。
新型コロナウイルスのため参加が限られたが、アンケートには好意的な評価が寄せられている。	○				今後の計画に沿って活動を行っていく。また、アンケートの評価を活動に生かしていく。
実践目標である「挨拶」「メディア」をPTAと連携しながら進めており、成果にもつながっている。学校運営協議会でも継続的に話題にしている。		○			今後もPTAと連携しながらコミュニティスクール実践目標を意識した家庭及び学校生活を送れるよう呼びかけていく。
体育科指導主事訪問を機会に、よりよい連学年授業のあり方について学ぶことができた。学んだことを他の授業に生かしていくことが課題である。		○			「振り返りの時間」をどの時間にも位置づけ、子ども中心の授業をさらに目指していく。
新型コロナの影響でなかなか実施することができなかったため、現段階では十分評価ができていない。			○		今後は計画していた研修や新たな研修を計画、実施したりすることで、研修を深めていく。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった